

第75回ドラッカー「マネジメント」研究会 発表  
堺屋太一の『団塊の後（三度目の日本）』を読んで  
—— コロナ時代が造る働き方改革と新しい日本 ——

2020年11月10日 山田 博彰

1. はじめに

堺屋太一が描いた2026年の日本は彼の最後のメッセージとなった。そこに描かれている社会は、今新型コロナウイルスによって一変した既存の社会を新しく生まれ変えるためのヒントが隠されている。

2. 戦後75年、戦争なき平和な日本はどうなったか？

官僚主義で安全・安心・安定・清潔・正確＝天国となった。

（定年までの完全雇用、夫婦共稼ぎ、社会保障で長寿安心、短い労働時間でたっぷりの余暇、小さいながらも皆持ち家）

3. 日本における大きな改革

一度目は幕末維新の動乱期で天下泰平を黒船が打ち破る。その結果幕藩体制・身分制度が崩壊し富国強兵・殖産興業が叫ばれ日清・日露戦争を経て軍備拡張と植民地主義が伸長、官僚支配につながっていく。

二度目は太平洋戦争の敗北。戦後アメリカ占領軍のジープとチョコレートによるアメリカの傘の下での規格大量生産型の工業社会の出現、ここでも官僚の指導下で社会が形成されてゆく。

4. 天国になった日本の現状

天国は良い処か？そこは神の独裁体制である。天国から上に登る階段はない。落ちまいと必死で守るしかない。行けども行けども楽園で刺激がなく周りにはみんな品行方正で退屈な世界でしかない。その結果次第に国力が低下していき敵のいない敗戦状態となる。

今日本は少子高齢化により、経済成長率（GDP）の低下、国民の意欲の低下（進学・結婚）、財政赤字の増大が深刻になってきている。

5. この天国状況から脱出する方法

この状況から抜け出すため堺屋太一は次のような提言をしている。

- ①税制改革 財源を地方へ
- ②地方制度改革 税制改革を実現するため全国を二都二道八州に分け国の借金を地方に移管する
- ③第四次産業革命 多様性と柔軟性を目指して個々の人間の力が発揮できるようにする。組織と時間からの解放を実現するため行政組織から率先して兼業・副業を推進していく。

6. 新型コロナウイルスによって凶らずも今までの社会が壊れつつある。

第3の変革が外からもたらされ働き方が変わる。時間の管理から仕事そのものの管理へと移行していく。

与えられた仕事をこなせば後は自由になり、空いた時間の使い方を各個人が工夫するようになり、兼業・研究・趣味・NPOなどに向けられる。どこに住むかまで選択が可能になり、結果として独立や収入アップなど各個人の意欲が向上し、それにより社会全体の生産性向上につながり活性化していくことになる。

7. おわりに

安倍首相の突然の退陣により、菅内閣が誕生した。菅総理はその所信で従来の役所の縦割り・前例主義・既得権益の打破を打ち上げた。この際は是非公務員の兼業・副業の解禁・推進を実行していただきたい。民間でもみずほ銀行が週休3日・4日を導入するニュースが流れた。新しい社会が再び日本が発展する契機になることを願っている。

さて、上記の提案に対するドラッカー理論からの検証はいかがでしょうか？そしてコロナ後の日本へドラッカー先生はどのような提言をしてくれるだろうか？